

## 2007仮説実験授業研究会 夏の北海道(茨戸)大会での分子模型作り

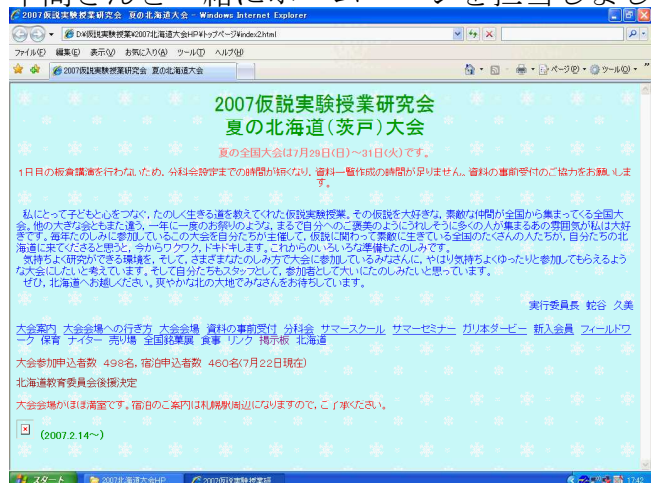
2008. 1. 23 小樽分子模型の会 斎藤一郎

[ichirokasetu@yahoo.co.jp](mailto:ichirokasetu@yahoo.co.jp) <http://www17.plala.or.jp/ichirokasetu/>

2007年7月29日～31日に仮説実験授業研究会夏の北海道(茨戸)大会が開催されました。今回の大会は実行委員になっていて、HPやパソコン関係、食事係も担当しました。分子模型作りももちろん行いました。思い出深い大会になったので、いろいろと紹介していこうと思っています。

### 大会ホームページを担当しました

ここ何年か、大会のホームページが作られるようになり、なんとなくボクができる仕事って考えたら、ホームページ作りかなと思い、岩見沢仮説サークルのみんなにお願いして、平間さんと一緒にホームページを担当しました。



2月くらいにトップページをUPしました。実行委員長の挨拶をどんと載せ、大会要項や会場への行き方、資料の事前受付、分科会、サマースクールやサマーセミナー、ガリ本ダービー、新入会員、フィールドワーク、ナイター、売り場、全国銘菓展、食事、リンク、掲示板、北海道の観光情報などがわかるように、各担当と確認しながら、一度には作ることができないので少しずつページを増やしていきました。

夏の大会が終わってから、ホームページを更新しました。実行委員長のお礼と記念写真をトップページに載せました。

また、大会期間中の写真や、分科会、ナイター、サマースクール、サマーセミナー、保育、売り場、全国銘菓展の様子を各担当者に教えてもらい、紹介しました。

閲覧数は8000を超えました。ありがとうございます。

今回、考えたのは、あくまでホームページはメインではなく、大会の準備を進めるために少しでも足しになれば良いくらいの位置づけを忘れないことでした。大会本体がスムーズに動くための道具だということを忘れて、暴走しないように努めたつもりです。また、できるだけホームページに載せる原稿の催促をしないようにしました。ホームページなんて、昔からあった訳ではないんだから、何もあわてる必要はないし、あわてさせることもしてはいけなと思ったからです。



## 食事係に立候補しました

2006年8月にボクは岩見沢仮説サークルのみんなに次のようなメールを送りました。

1000名からの食事を出している名水亭で感じたことは、500名以上の参加者を相手にバイキングをするためには、このままでは無理だと言うことです。「別の食事会場だから大丈夫」とスタッフは思っているでしょうが、そんな甘いものではありません。会場の配置、責任者の動き、スタッフの係割りなど改善しなければならないことが多いと思います。なので、可能であれば、食事係として動き、事前から関わっていきたいなと思いました。

2005年と2006年の夏に、「北海道・仮説実験授業フェスティバル」の会場としても利用したときは、300人弱に対応できる1階の大食堂を使いました。でも、食べものの前に長い列ができたり、食器が足りなくなったり、食器の場所が分かりづらかったり、片付けが間に合わず座る席が足りなくなったりしたのです。

2007年1月、北海道たのしい授業講座の2日目の夕食が終わってからホテルとJTBの担当者に問題点を説明し、ボクなりの改善策（片付けと補充の係を分ける。責任者が食堂の状況を把握する）を話しました。3日目の朝の食事は1階の大食堂でしたから、一般のお客さんもそれなりにいたと思います。でも、2日目までとはスタッフの動きが違いました。しかし、1時間くらい時間が過ぎた頃から、元の大食堂に戻り始めたのです。それでも、食堂のスタッフが努力したんだなという雰囲気を感じることはできたのは大きな収穫でした。

6月に大会会場で実行委員会を行ったときに、北海道らしい料理も出して欲しいので、大会の夕食のメニューで試食させてもらうようお願いしました。でも、北海道にこだわりすぎて美味しくないのもや、北海道っぽくなかったりで、細かく意見を出しました。

7月。できる限りの準備はしたつもりで大会に臨みました。JTBの担当者には「食事が失敗だったら一緒に謝って歩くよ」と言っておきました。1日目の6時頃、食事会場に行きました。食べる気は全然起きなかったもので、とりあえず料理を見たり、ホテルのスタッフの動きを見たりしていましたが、いつの間にか腕を組んで怖い顔をしていたようです。

大会も順調に進み、2日目の夕食になりました。本部もバタバタしていたので、時間差をつけて食事を取ることにしました。ボクは事務局長の宮平さんと後半に食べに行きました。無事に食事ができて良かったなと思っていたら、宮平さんが生ジョッキを持って来てくれ、一緒に乾杯しました。大会ではあまり飲まないんですが、このときのビールの味は格別で、とても美味しかったです。

今までの過去の大会などで、バイキングは成功したことがないと言われ、謝るための食事係とも言われましたが、なんとか無事に大会を終えることができました。各ホテルの状況は違うと思いますが、とにかく食べる仮説の仲間たちをどうするかと考えていけば、バイキングでもなんとかなるんだと思います。バイキングも仮説・実験なのでしょうね。

## ほとんど正男さんにやってもらいました

最近の夏冬の大会のナイターだと、どーんと座って、ひたすら皆さんに分子模型を作ってもらうパターンだったのに、今回はさすがに無理でした。HPは大会期間中は休止でしたが、食事係以外にも、全体会のスクリーンに投影する準備や、掲示板の設置、コピー機や印刷機の修理依頼とけっこういろんな事をしてたなーと思いました。

ですから、分子模型作りもたまに覗いて写真を撮るだけで、ほとんど正男さんにやってもらったんです。感謝です。

## 1日目

昼間の全体会や分科会ではほとんど人がいない場所ですが、ナイターになるといつも誰かが分子模型を作ってくれました。この日は2時くらいまで作っていた人がいたような気がします。



2人ともドライアイスに挑戦です。



手前の方はデンプンに挑戦です。ひたすらブドウ糖を作っています。  
奥の女の子は大会などでよく来てくれる常連さんで、よく鉱物を買ってくれるんです。



この方もデンプンに挑戦です。たくさん炭素を切らなければならないので、疲れます。



右側の男性もデンプンを作っています。ブドウ糖を2つ作って疲れてしまったのかも。  
左側の女の子は水を作ってるのかな？



お二人で氷を作っているような感じです。



ナイターは当然，夜なんですけど，たくさん  
の子どもたちが作ってくれました。お父さん  
やお母さんが仮説の会員というパターンが多  
いですね。



砂糖を作っているのかな？

## 2日目

分科会が始まる前に，分子模型を作りに来てくれる人もいますよ。いつもの大会では売り場で分子模型作りはないので，ちょっと雰囲気が変わっていて，おもしろいです。



ブドウ糖をひたすら組み立てています。



組立台で，ドライアイスを組み立てています。



セルロースを組み立てるために、ブドウ糖を作っています。



きっとドライアイスを組み立てるために、二酸化炭素を作っているところだと思います。女性が来ると正男さんはうれしそうですね。



もうすぐデンプンの完成です。お疲れ様でした。



デンプンの組立中です。正男さんの真剣なまなざしに注目！



手前の女性はセルロースを作っています。



子どもたちよ。いったい何時まで分子模型を作るの？ 確か、この日は最後の方が3時過ぎまでいたような気がします。